

日本一周 分割走破の旅

真冬の沖縄本島縦断の旅 2019/1/16～1/19

Report No.17



真冬の沖縄本島縦断 『沖縄は寒かった...』

昨年同時期の鹿児島・宮崎ライドの寒さを思い出し、今回は'暖かな'沖縄本島を縦断することにしました。が、実際に沖縄本島の北部に行くと北風が吹きすさんでいました。

【プロローグ】今回の旅の目的は、沖縄本島西海岸の縦断です。沖縄本島最北端の辺戸岬から'ほぼ'最南端の喜屋武岬までを走破する計画でした。本来は、一筆書きで最北端→最南端を目指すはずでしたが、那覇空港に着陸した飛行機の窓からは無情にも雨粒が…。今回は、3泊4日の短期の縦断です。1日目と二日目も朝から本降りの雨予報でした。当初、初日は最北端・辺戸岬に近い国頭村辺土名にバス移動し、二日目に辺土名より最北端・辺戸岬を目指し、同じルートを那覇まで南下、三日目は那覇より最南端・喜屋武岬を目指す計画でした。

『30分遅れで着陸した那覇空港は、天気予報通り小雨が降っていました。1日目と二日目の雨天走行を極力回避する為に、事前に計画を変更していました。1泊目は那覇泊とし、那覇市内のホテルへの移動のみ。2泊目は、那覇から名護経由で国頭村辺土名へのバス移動。3泊目によやく晴天が見込まれたので、国頭村辺土名より一旦辺戸岬へ北上、その後は折り返して那覇まで一気に南下し那覇泊。三日目は、那覇より喜屋武岬を走破し、そのまま那覇空港へ行き、空路帰京という少しだけ強行な日程でした。那覇空港の外に出ると雨は何とか止み、喜屋武岬までならばと思い、再度計画を変更し、沖縄本島'ほぼ'最南端の喜屋武岬を目指すことにしました。』



ヤンバルクイナ！

沖縄島北部の象徴。国道58号線で国頭村に入るとヤンバルクイナがお出迎え。全長35cmほどの鳥。



ゆいレール輪行

沖縄県内の唯一の鉄道路線。開業は2003年。輪行は電車と全く同じ。もちろん手荷物料金もかからない。



守礼門は沖縄のシンボル

首里城の大手門に値する。式千円券の図柄としてあまりにも有名。柱は4本、二重も屋根を持つ。

1

那覇空港→喜屋武岬

曇り空の中、急遽沖縄本島'ほぼ'最南端に位置する喜屋武岬

へ

2019年1月16日：

走行距離：38.55km 平均速度：19.6km/h

最高速度：n/a 走行時間：1:57.40

降り立った那覇空港のロビーはこの時期でも人でごった返していました。羽田空港で預けた輪行袋は、ターンテーブルではなく係員が運んで来てくれました。（昨年秋の関空からのJAL便では、羽田空港のターンテーブルに横置きに輪行袋が載せられていました。横置きは変速機などの破損が心配です。

沖縄の人らしく人懐っこい若い男性係員より輪行袋を無事受け取り、早速表のバス乗り場前で組み立てに取り掛かりました。この時点で雨は取り敢えずほぼ上がり、雨具の着用は必要ありませんでした。迷った末、喜屋武岬行きを強行することにしました。今回は、ロードバイクを持ち込んでの沖縄縦断でした。ロードバイクの組み立てはランドナーと違い、前後車輪を嵌めるだけです。短時間での組み立て完了が魅力です。気になる後変速機の破損などもなく車輪のブレもありませんでした。縦断中、この瞬間がやはり一番緊張します。自転車にダメージがあれば、最悪旅そのものをスタートすることができません。蛇足ですが、知人のベテランサイクリストが、自宅にサドルを忘れ大変だった話をいつも思い出します。飛行機輪行で着いた先が北海道だったとか…。



那覇空港を後にし、実際に走行するとかすかに雨が降っていました。足元を見ると、雨用のブーツカバーも必要なさそうでした。縦断中も、足元が濡れるのが嫌で、ブーツカバーを多用しています。結局、雨具の着用はせず、そのまま喜屋武岬を目指すことにしました。那覇空港より国道331線を糸満市方面に南下しました。那覇市内、工事箇所が多く、路肩が荒れていて走りづらく、大変でした。海沿いの国道とは言っても、右手に海を見ながらの走行ではありませんでした。途中、糸満警察署を過ぎると糸満港に大きな橋が架かっていました。自転車通行不可で、側道を行くと袋小路になってしまいました。地元の人に聞いてみると、途中階段があるので、そこから橋に上ると、橋の側道を行けると教えてくれました。その階段の脇には自転車用のスロープがあり、大回りしてようやく橋の上に辿りつけました。

糸満市役所を過ぎ、『真栄里』の信号を過ぎると南部病院があり、そこを右折すると岬までは5kmほどでした。喜屋武岬まで道はほとんど整備されておらず、途中ダートもありました。また、岬までの道がわかりずらく、小さな標識を頼りに何とか辿り着きました。最果てムードのある正真正銘の岬でした。沖縄本島最南端は、海に向かって左側にある「荒崎(上の写真突き出たところ)」ですが、こちらも道が整備されておらず、アクセスが難しいようです。また、喜屋武岬は、沖縄戦で追い詰められ、身を投げ自決したという歴史もあります。岬には、慰霊碑「平和之塔」が建てられています。

喜屋武岬には、すでに高校生5～6名を引率した地元ガイドさんの一行がいました。この岬を境に太平洋と東シナ海に分かれること、沖縄戦の激戦地でもあり岬より多くの人々が自決のため身を投げた話などが聞こえてきました。一行が一足先に立ち去ろうとすると、地元の女性ガイドさんが私に話しかけてきました。つい先日も、ここから身を投げて自殺した人がいると教えてくれました。おおよそ、観光地とは言えない人気のない場所でした。目の前には、青い海が広がっているだけの場所でもありました。私も10分ほど岬を後にしました。途中、国道まで行く間に具志川城跡があります。一行は、車を停めて見学していました。後で知った話ですが、ここから見る海はとても綺麗なようです。すでに時刻は午後5時前でした。この時期、日の暮れるのも早いので、急ぎ那覇市内に戻ることにしました。

ちょうど夕方のラッシュアワーなのか、沖縄にしてはそこそこの交通量がありました。那覇市内の宿には、同じ道に戻って、17:45くらいに無事到着しました。この日は、国際通りにもアクセスの良い、ゆいレール旭橋駅の近くの宿を取っていました。この宿、ユースホステルのような形式で、各自にベットが割り当てられます。カーテンがあるので、一応プライバシーは保たれます。縦断中も、たまにこんな宿に泊まることもありましたが、この宿は快適でした。近隣に飲食店は多数あり、何より駅前。そして国際大通りまで歩いて10分程の距離でした。ただし、隣の方のイビキは強烈でした。こればかりは予測不能です。どうしても、熟睡したい時にはやはりちゃんとしたビジネスホテルを選びます。（耳栓の無料サービスがありました。笑。）

ビルの4・5階にホテルがあり駐輪場なども全くありません。仕方なく、輪行袋に詰め込み、部屋まで持ち込みました。夕食は、宿の近くの大衆食堂で、沖縄のちゃんぽんをいただきました。ご飯の上に具がのっており、本土のものとは、別ものでした。今回は、なるべく地元の食堂で'ディープな沖縄を'と思っていました。



第一日目、長い1日がようやく終わりました。

2

辺戸岬→国頭村

天気に恵まれれば、遠くに鹿児島県と論島などの眺望が。

この日はどんよりとした空....

2019年1月17日：

走行距離：41.42km 積算走行距離：81.24km 平均速度：17.9km/h
最高速度：46.2km/h 走行時間：2:18.34

朝6:30に起きると外は'予報通り'本降りの雨でした。変更した計画通り、この日は名護経由で国頭村辺土名バスターミナルまでバス輸行をすることにしました。その前に、那覇バスターミナル近くの[oHacorte]オハコルテベーカリーにモーニングを食べに行きました。サラダセット(¥550)の酸味の効いたドレッシングの美味しいこと。トーストされたパンも美味しくいただきました。朝からお洒落なベーカリーで飲むコーヒー、何とも贅沢なことです。今までの縦断中、こんな朝食なかったな~とつくづく思いました。今回の沖縄、3泊4日で、距離200km以下です。縦断というよりも、のんびりしに来たというのが本音です。たまにはこんなライドも良いものです。モーニングを堪能し、ホテルに戻り那覇バスターミナルから名護行きのバスに乗車するために準備を始めました。

那覇バスターミナル→名護バスターミナル→辺土名バスターミナルへのアクセス：

- ▶那覇BT(10:05発) → 名護BT(11:30着) 沖縄バス[117]高速バス(2,100円)
- ▶名護BT(12:45発) → 辺土名BT(13:41着) 沖縄バス[67]辺土名線(1,050円)

今回、沖縄縦断を計画するにあたって、一番悩んだのはスタート地点の沖縄本島最北端・辺戸岬までどのように自転車を運んで行くかでした。もう少し、日程に余裕があれば沖縄本島一周も出来ませんが、3泊4日の日程。例えばツールド沖縄のルートでも336km(最南端までは行かない)あります。今回は、シーズン始めのライドですので、のんびり走るのが目的でした。

辺戸岬までの公共交通機関は、バスとなります。ご存知の通り、沖縄には鉄道はありません。路線バス（那覇バスターミナル→名護バスターミナル間は高速バス）でのバス輸行は可能なのか、事前に調べてみました。沖縄バスのHPには、

『手荷物として自転車を持ち込むことはできますか？』のQ&A項目(路線バス)があり、

『解体、又は折りたたんだ状態で輸行袋等に収納し、揺れなどによる破損や故障についての免責に同意頂ければお持込み可能です。但し、混雑時など車内通路が確保できない場合については、他のお客様にご迷惑となりますので乗車をお断りする場合があります。ご了承下さい。』と明記されています。

また、実際に他のサイクリストの旅行記などをHPで見て、沖縄のバス輸行はハードルが低く、かなり緩いことがわかりました。レンタカーなども考えましたが、乗り捨てとなり、料金的にみてもやはり現実的



ではありませんでした。今回は、路線バス輸行で最北端のゲートウェイ・国頭村辺土名バスターミナルに行くことにしました。

10:05発の名護バスターミナル行き的高速バスに乗るために、余裕を持って9:30に宿を出発しました。前日に、輸行袋に自転車を納めていたので、そのまま那覇バスターミナルまで担いで行きました。ただ、雨は依然本降りでした。那覇バスターミナルは、ゆいレール・旭橋駅を挟んで反対側に位置していました。7～8分の距離です。ありがたいことに、宿から出てすぐのところに、エレベーターが設置されており、その上の歩道橋にも屋根がありました。那覇バスターミナルまで濡れずに移動できました。那覇バスターミナルの近くに宿を取って正解でした。名護バスターミナル行きのバス停には、まだ少し早いせいか、待っている乗客はいませんでした。発車時刻に近づくと4名程の乗客が列を作りました。内二人はいかにも「美ら海水族館」に行く観光客でした。私の乗車したバスは、「沖縄バス [117]高速バス ホテルオリオンモトブリゾート&スパ行」です。この高速バスの始発は那覇空港、「ホテルオリオンモトブリゾート&スパ」行となっていますが、実際は一つ手前の「美ら海水族館」行でした。乗客が多かったりすると、乗せてもらえないのではないかと少し不安でした。交差点を右折し、バスが入線してきました。中を覗くと乗客も疎らでした。まず、4名の乗客に先に乗車してもらい、運転手さんに、『自転車ですけど、大丈夫ですか?』と尋ねると、『荷物室に入れますか?』と聞き返されました。車内を覗くと、運転席の後ろに、大きなスーツケースも収められる荷物スペースがありました。結局、車内の荷物スペースに無事輸行袋を置くことができました。やれやれです。

名護まで間、高速のICで降りてはバス停に停車し、また高速へ戻りの繰返しでした。乗客もまばらで、高速バスとは言っても生活路線のようでした。名護に近づくと雨も殆ど上がり、空も明るくなってきました。着いた名護バスターミナルは、ローカルなのかなバスターミナルでした。ちょうど、11:30、ターミナルの食堂で昼食をと思っていましたが、売店だけしかありませんでした。その売店を覗いてみると、アジアにある雑貨屋のようでした（懐かしい〜）。ターミナルには人っ子一人いませんでした。たまたまいた地元のおばーに、近くに食堂は無いかと聞いてみると、ターミナルの真向かいにある『やんばる食堂』を勧められました。時間的にも大分余裕があるので、辺土名バスターミナル行きのバスを一旦遅らせ、『ヤンバル食堂』でお昼を食べることにしました。

ちょうどお昼時、『ヤンバル食堂』には地元の人が大勢いました（旅行者は皆無）。いかにも、沖縄の大衆食堂でした。メニューも豊富で、'ゴーヤちゃんぷる'、'ソーキそば'、'アグーロースとんかつ'など魅力のある料理がありました。迷った末に、ソースかつ丼を注文しました。少し甘めなソースが自分好みで大満足でした。『ヤンバル食堂』を出ると、空も明るくなり、明日予定していた'辺土名バスターミナル→辺戸岬→辺土名(宿)'を前倒しして走れるかとも思い始めました。この日に、'辺戸岬→辺土名'を走破しておけば、三日目の翌日は、'辺土名→那覇'となり、100km以下のライドとなります。

定刻12:45の少し前に、名護バスターミナル発辺土名バスターミナル行きのバスが入線してきました。乗客は私一人でした。この路線、沖縄バスと琉球バスの共同運行です。12:45発のバスは、琉球バスの運行でした。バスの運転手さんに、『自転車があるんですけど…』と尋ねると、『いいですよ』と車内への持ち込みを許可してくれました。嬉しいことに、この路線バス、運転席と反対側の最前部に大容量の荷物置き場がありました。輸行袋も難なく収まり、この便も無事バス輸行ができました。辺土名までの間、地元の人、中高校生の乗客の乗降しかなく、終点まで行ったのは私一人でした。

着いたら辺土名バスターミナルには、バスターミナルの表記もなく、ただの空き地と言った場所でした。端っこにトイレがあるだけの、ターミナルとは思えない場所でした。雨もすっかり上がり、まだこの日の宿(辺土名)のチェックインまで時間もあるので、辺戸岬までおおよそ40kmを往復することにしまし

た。辺戸岬まで辺土名バスターミナルから20km。信号もなく、国道58号は、東シナ海沿いにずっと続くだけの道でした。上り基調の向かい風、疲れました。山形県の日本海側のような…。おまけにはるか彼方に岬らしきものが。この光景は、まさに稚内から宗谷岬にいるような…。沖縄にいて、なぜか北海道を思い出しました。いくつかのトンネルを通り、国道58号より逸れた場所に、辺戸岬がありました。天気が良ければ、与論島や沖永良部島を見ることが出来ますが、この日は、やっと雨が上がった空模様でしたので、それらの島を望むことは出来ませんでした。サンゴ質の絶壁で出来た台地が広がっていました。国頭村からの公共交通機関は、国頭村営バスだけで、まさに僻地でした。



遮蔽物などもない吹きさらし辺戸岬は、北風が強く、寒いだけの場所でした。海外からの観光客も含め、3組ほどの来訪者は、レンタカーで来ていました。岬のベンチで暖かい飲み物を飲んで、岬を後にし、辺土名に向かいました。岬への国道はそこそこのアップダウンがあり、往路はかなり脚を使いましたが、復路は追い風でもあり、この日の宿「民宿 やんばるくいな荘」には17時くらいに到着しました。体感温度、寒すぎ！辺土名の民宿のおばー曰く、『今日が一番寒いよ！』と開口一番言われました。民宿では、暖房を入れました。

岬への往復41km足らずですが、この日もなんとかライドが出来てホッとしました。

3

国頭村→那覇

沖縄に来て初めて☀️しました。
ようやく本格的なライドができました。

2019年1月18日：

走行距離：96.27km 積算走行距離：177.52km 平均速度：23.9km/h
最高速度：n/a 走行時間：4:01.24

昨晩は、北風が吹き荒れなかなか寝付けませんでした。6:30に起床し、朝食を取りました。外は、快晴とまではいかずとも、それまでの二日間とは打って変わって、晴れてました。前夜、朝食は、6:30にお願いしておきました。この宿、作業員の方が7～8名泊まっていました。7時から朝食を取るそうなので、その前に済ませようと思いました。夕食時、おばさんは配膳で大忙しでした。和食の朝食には、ポークステーキが三切れに、大根の煮物、ヨーグルトなどが付いていました。夕食にはトンカツが出され、やはりここ沖縄は豚肉が身近なように感じました。



7:40、外が明るくなってきたのを見て、那覇に向け出発しました。沖縄に来て初めての本格的なライドとなりました。那覇までは、峠などもなく100km弱の比較的余裕のあるルートでした。国道58号は車通りも少なく走りやすく、追い風でペースが上がりました。

午前9時、昨日辺土名行きバスに乗車した名護バスターミナル、辺土名行きバスの待ち時間にお昼を食べた『ヤンバル食堂』を通過。お昼にはあまりにも早すぎました。お気に入りの食堂なのに、残念でした。名護のファストフード店でコーヒータイクを取ることにし、30分の休憩後、恩納村に向けて出発しました。どうしても、朝、一杯のコーヒが飲みたくなります。

名護から先の国道58号、一般道にもかかわらず、最高時速は60km/h！往来自体は少ないものの、ダンブカーがやたらに多く気が抜けない。車のペースに釣られて順調なペースで嘉手納まで走ってしまいました。嘉手納から那覇まで20km、すでに那覇まで射程圏内です。嘉手納基地の目の前にある大手カレーチェーンでランチ休憩をすることにしました。迷彩服を着たアメリカ兵が沢山食事をしていました。改めて基地を抱える沖縄を実感させられました。

快晴ではないものの、いつの間にか北風も止み、真冬なもののように沖縄らしくなってきました。那覇に近づくにつれ、交通量がかなり増え、おまけに左折専用レーンが多く、直進する自転車はかなり走りずらく感じました。那覇旭橋のホテルは、一昨日と同じを予約しておきました。午後2時前に無事到着。あっという間に沖縄縦断の旅は終わりました。

4

那覇旭橋→首里駅

守礼門のある首里城まではずっと上りでした。観光客の多いこと。やはり有数の観光地。

2019年1月19日：

走行距離：11.03km 積算走行距離：187.50km



いつものように6:30に起床。表を覗くと、まだ夜明け前と言った感じでした。1泊目の朝食にも行った、那覇バスターミナル近くのオハコルテベーカリーに朝食を食べに行きました。開店は7:30。すでに東洋系の外国人が4名程列を作っていました。

この日のフライトは、那覇発13:30でしたので、午前中かなり余裕がありました。朝食後、那覇旭橋より首里城に行き、守礼門に立ち寄り、近くのゆいレール「首里駅」より「那覇空港前」まで、初のモノレール輸行をしました。

首里城は、小高い丘の上に立地し、那覇市内からずっと上りでした。10km程の距離ですが、そこそこの疲労感がありました。流石に、観光地・守礼門に近づくと、駐車場待ちの観光バスで渋滞が発生していました。この時期、高校生の修学旅行が多く、那覇の国際通りでも目にしました。「守礼門」に来たのは、学生以来となりますので、実にうん十年ぶりとなります。当時の事は、あまり鮮明に記憶に残っておら

ず、「守礼門」は意外に小ぶりの建造物でした。時間の都合で、本殿などには行くことが出来ませんでした。が、次回の沖縄ライドでは、是非訪れたい思いました。

首里城にほど近い「首里駅」にて、この旅最後の輸行を行いました。このまま、那覇空港のチェックインカウンターで預け入れますので、丁寧に輸行するよう心がけました。特に、最後のフレームに両ホイールを挟んでの三点留めは、心持ち少し硬めに結束しました。ブレーキレバーやチェーンホイールには、養生として予備グローブなどをあてがいました。

「首里駅」は、ゆいレールの始発駅です。モノレールの輸行は初めてですが、電車と何ら変わりません。乗客も疎らでした。ところが、那覇も中心部に入ると車内もごった返してきました。大きなスーツケースを持った空港に行く旅行者も多く、輸行袋にぶつけられそうで、神経を使いました。こちらも大きな輸行袋を車内に持ち込んでいるので、気が引ける部分もあります。

那覇空港では、最後まで沖縄らしく「ソーキそば」を頬張り腹ごしらえをしました。JAL便は、羽田に向け定刻より若干遅れて離陸しました。短い沖縄縦断でしたが、寒さに震えた沖縄北部、沖縄料理などを堪能でき、思い出深い旅となりました。羽田空港では、ターンテーブルの上を横置きで輸行袋が廻っていました。泣

走行データ

日付 H31	出発地	目的地	通過都 道府県	天気 気温 *)☂の 日	走行距離 *)100km以上 獲得標高	積算走 行距離	平均速 度 *)20k m/h未 満	最高速 度	走行時 間	宿泊先	
1	1/16	那覇空港	那覇(旭橋)	沖縄	☁時々 ☂ 18.3℃	38.55km 上り：170m 下り：175m	38.55k m	19.6k m/h	N/A	1時間 57分	那覇エアポートホテル 宿の評価：○
2	1/17	辺土名バ スターミナ ル	辺土名	沖縄	☁ 17℃	41.42km 上り：363m 下り：366m	81.24k m	17.9k m/h	46.2k m/h	2時間 18分	民宿やんばるくいな荘 宿の評価：○
3	1/18	辺土名	那覇(旭橋)	沖縄	☀ 19.6℃	96.27km 上り：738m 下り：731m	176.47 km	23.9k m/h	N/A	4時間 57分	那覇エアポートホテル 宿の評価：○
4	1/19	那覇(旭橋)	首里駅	沖縄	☀ 23.1℃	11.03km 上り：119m 下り：8m	187.50 km	19.6k m/h	N/A	N/A	自宅

- ・気温は参考データです。→出発地(またはその付近)のその日の最高気温を掲載。
- ・走行距離及び積算走行距離→サイクルコンピュータのデータにつき、多少の誤差あり。
- ・平均速度20km/h未満の区間は、峠越え、強風、体調?などにより、苦労した区間。
- ・宿の評価 (◎=また泊まりたい、○=可もなく不可もなく、△=たぶんもう泊まらない)



名護バスターミナにて。超ローカルなターミナルでした。

ルート詳細 (1)

▶ 一日目 [那覇空港→喜屋武岬→那覇市内 / 38.55km]



沖縄初日、雨が上がったのを見て那覇空港より喜屋武岬へ。那覇市内が工事中の為、路肩が荒れていました。気になるようなアップダウンはないものの、喜屋武岬手前に一部ダート区間がありました。喜屋武岬は、大型バスが入れるような観光地ではありませんでした。



▶ 二日目 [辺土名バスターミナル→辺戸岬→辺土名 / 41.42km]



二日目は、那覇より国頭村辺土名までのバス輸行が、メインでした。この日は、朝から大粒の雨が降っていましたが、経由地名護に着く頃には雨も上がり、翌日の予定を前倒して、沖縄島最北端・辺戸岬まで往復してきました。辺戸岬までの往路は向かい風、逆に国頭村までの復路は追い風となりました。辺戸岬までは小刻みなアップダウンが続き、向かい風もありかなりペースダウンしての走行でした。



ルート詳細 (2)

▶ 三日目 [辺土名→那覇 / 96.27km]



三日目にして、ようやく本格的なライドとなりました。とは言っても、距離にして100km弱。追い風も手伝いペースが上がり、予定よりも大幅に早く那覇市内に到着。恩納村より恩納バイパスに入り、読谷村あたりまで坂の連続で、体力を消耗しました。ところどころ、右手に東シナ海が見え、走っていて楽しかったです。那覇市内に近づくと、交通量も増え、神経を使いながらの走行となりました。のんびりとした土地柄か、概ねドライバーのマナーも良いように感じました。(日本全国を走ってきて感ずるのは、県民性が結構出ます。)

▶ 四日目 [那覇旭橋→守礼乃門→首里駅 / 11.03km]



最終日は、那覇旭橋駅より守礼門へ。午後のフライトの時間調整で、少しだけ走ってみました。前日歩いた国際通りを走り、首里城に向かいました。平坦なイメージがする那覇市内ですが、首里城は丘の上に立地し、市内よりひたすら上りでした。

沖縄ミニグルメ（その1）



三笠 久米店 沖縄県那覇市久米1-15-3 1F
食べログ評価：3.50
チャンポン(スープ付き) 600円
たっぷりの玉ねぎと卵、挽肉の下にはご飯が。
'長崎'ちゃんぽんとは別物です。



オハコルテベーカリー 沖縄県那覇市泉崎1-4-10 喜納ビル 1F
食べログ評価：3.54
サラダセット 550円
もっちり食感の食パンが美味しい。コーヒーもたっぷりサイズでつい長居してしまいます。



ヤンバル食堂 沖縄県名護市宮里3-1-573
食べログ評価：3.10
ソースかつ丼 550円
気持ち甘めのソースにからっと揚げたカツが美味。なぜか、千切りのキャベツも美味しく感じる。

沖縄ミニグルメ（その2）



三笠 久米店 沖縄県那覇市久米1-15-3 1F
食べログ評価：3.50
チャーハン(スープ付き) 600円
本土のチャーハンのようにパサパサ感はない。
それがまた美味い。ご飯も多めでサイクリスト
にはありがたいメニューです。



ブルーシール パレットくもじ店 沖縄県那覇
市久茂地1-1-1 パレットくもじ 1F 食べログ
評価：3.20
「ブルーウェーブ」：シングル 330円(写真
撮り忘れ。汗。)
沖縄定番のアイスクリーム屋。国際通り入り
口、県庁前にあり夜になるとご覧のように一目
瞭然。こちらの店舗は直営店です。



オハコルテベーカリー 沖縄県那覇市泉崎1-
4-10 喜納ビル 1F
食べログ評価：3.54
スクランブルエッグ&ソーセージ：750円
「アーサと岩塩」のパンを追加。アーサ(あお
さ)とは沖縄の岩場に生える緑色海藻のこと。

沖縄ミニグルメ (その3)



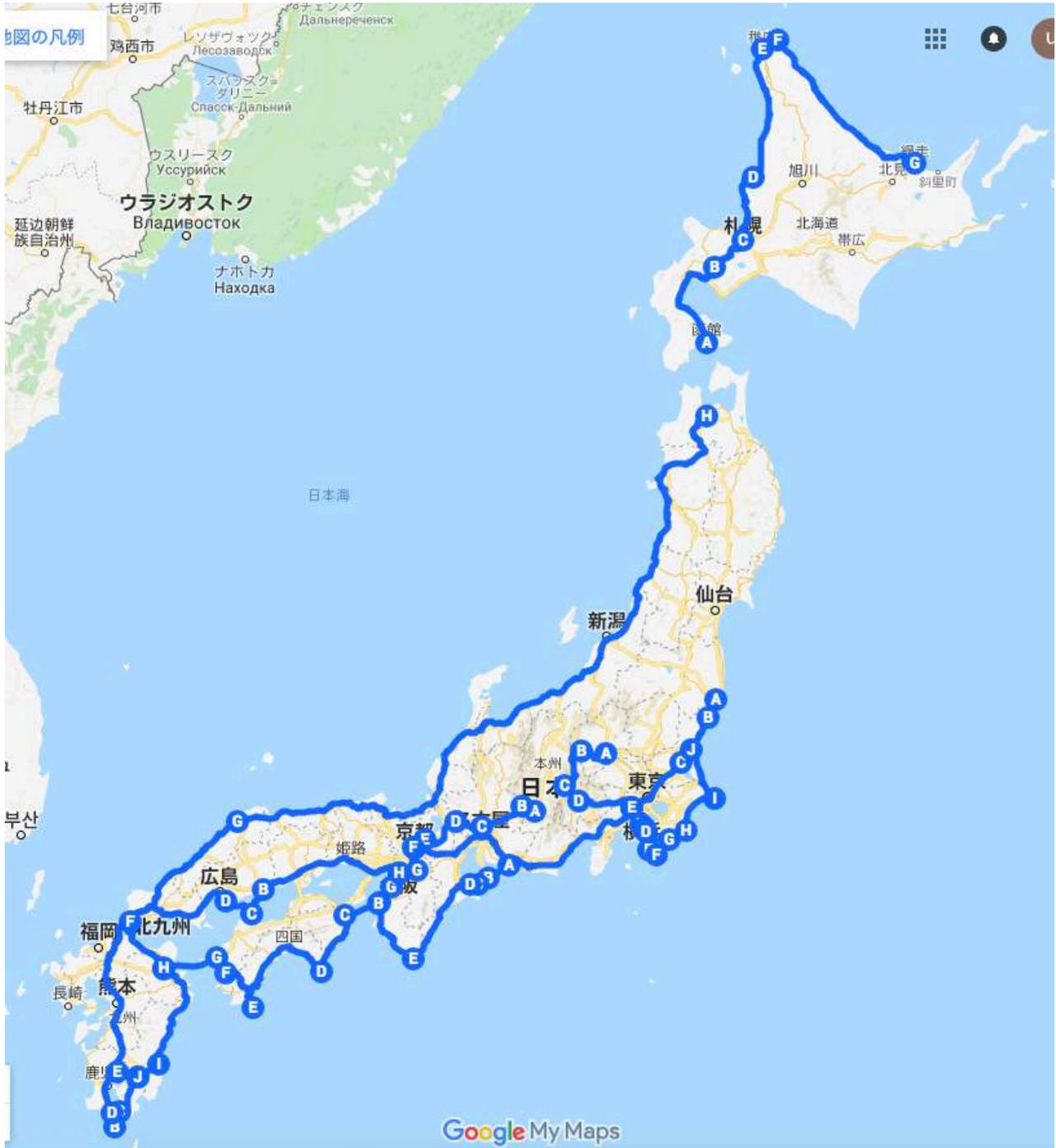
めん処 たぬき 沖縄県那覇市字鏡水150(那覇空港)

食べログ評価：3.00

ソーキそばセット：1,100円

今回の沖縄最後の食事は、ソーキそばでシメました。ちなみに「沖縄そば」は三枚肉が、「ソーキそば」は豚のあばら骨の骨付き(スペアリブ)がトッピングされています。

日本一周の足跡 (H27/2～)



← 『今回の沖縄縦断(辺戸岬→喜屋武岬)』

平成27年2月に鹿児島空港をスタートし、日本縦断が始まりました。平成29年6月に宗谷岬に到達し、日本縦断を達成しました。その間、当初の計画にはなかった、太平洋側のルートも少しずつ走破し、気づくと残すところ、北海道の半分と東北の太平洋側の未走破部分を走ると「日本一周」となっていました。積算走行距離は、7,235Kmに達しています。今回は、寒さを避け沖縄本島を走りましたが、思った以上の寒さで参りました…。海岸線だけではなく、内陸部も走ることにしました。内陸ルートは、山岳ステージが多く大変ですが、また違った日本の風景を見ることができ、楽しく走っています。自分なりの日本一周のゴールは、全県走破と自由に到達可能な東西南北端(宗谷岬、波照間島、与那国島、納沙布岬)でしょうか。まだまだ、先は長いですが、のんびり走りたいと思います。

装備一覧



アンカー-RFA5 EQUIPE 105 2015年モデル
アルミロードバイク 480mm
ギアクランク 52-36T
スプロケット 12-25T 11速



Fバック装備：



	スマートフォン		ワイヤーロック
	iPad mini		地図
	財布&PASMO		予備グローブ(薄手)
	筆記用具		航空券
	予備メガネ		洗面用具
	飲み薬		予備チューブ 1本目 +タイヤレバー
	絆創膏&湿布		洗顔タオル など

R大型サドルバック装備：

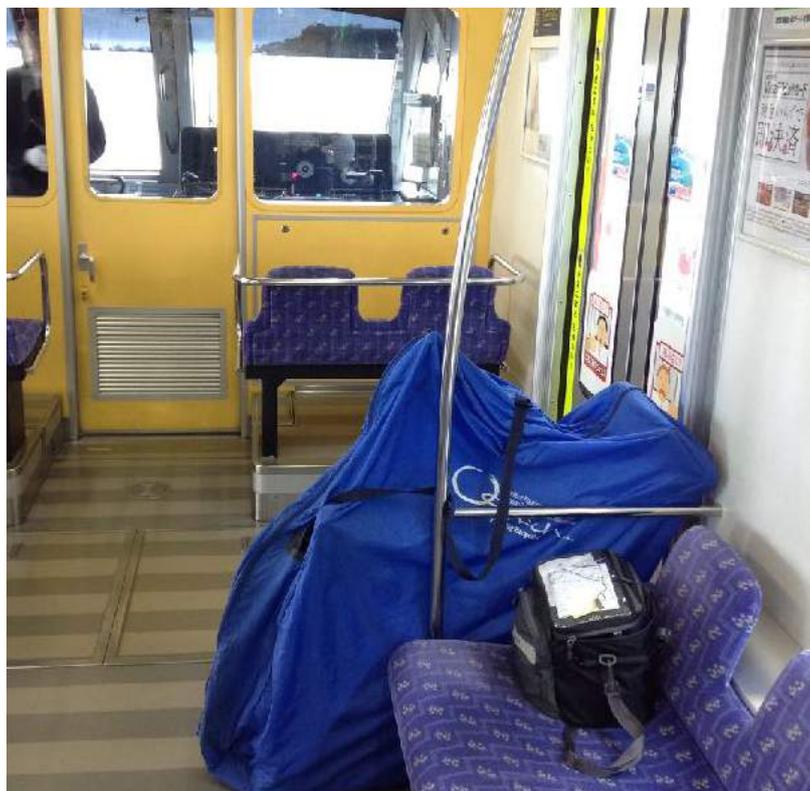


	速乾性Tシャツ×2		外出用ズボン(薄手)
	アンダーウェア×2		スマホ/iPad電源ケーブル
	靴下×1		携帯ツール
	スポーツ用ジャージ(上)		デイパック(輸行時、R大型サドルバックを収納)
	雨具&ブーツカバー		予備チューブ 2本目 など

走行中のウェア：

	速乾性Tシャツ		通常期のグローブ(今回は沖縄ということで、冬季用ではない。)
	モンベル製のサイクルトレーナージャケット(冬用)		GIRO製ヘルメット+キャップ
	パールイズミ製ウィンドブレークタイツ(5°C)		パールイズミ製反射ベスト
	モンベル製のサイクル ツーリングショーツ。ブレークタイツの上から着用		

以上。



ゆいレール車内にて。首里駅より那覇空港駅まで直接乗り入れです。まだまだ、旅は続きます。笑